



伊東辰彦 名誉教授



## 伊東辰彦名誉教授 略歴・業績

(CV and List of Works for Professor Emeritus Tatsuhiko Itoh)

### 略歴 (CV)

#### 生年月日 (Date of Birth)

1952年11月18日

#### 学歴 (Degrees)

B.A., 国際基督教大学 教養学部 人文科学科 音楽学専攻 (1974-1978)

M.A., Music History, State University of New York at Stony Brook,  
Graduate School (1979-1981)

Ph.D., Musicology, Duke University, Graduate School (1984-1991)

#### 職歴 (Career)

国際基督教大学人文科学科助教授 (1992-1998)

人文科学科准教授 音楽学 (1998-2003)

人文科学科教授 音楽学 (2003-2008)

宗教音楽センター長 (2004-2015)

ディッフェンドルファー記念館長 (2006-2008)

教養学部副部長 (2007-2010)

アーツ・サイエンス学科教授 音楽学 (2008-2018)

美術・音楽デパートメント長 (2008-2010)

教養学部長 (2013-2017)

名誉教授, 特別顧問 (2018-現在)

インスブルック大学音楽学研究所客員教授 (2004-2005)

立教大学経済学部兼任講師 文化経済学担当 (2008-現在)  
 国立音楽大学外部評価委員 (2017)

### 受賞歴 (Academic Awards)

Graduate Fellowship, Music Dept., Duke University (1984/9-1986/5,  
 1990/9-1991/5)  
 Dissertation Travel Grant, Duke University, Graduate School (1988-  
 1989)  
 Exchange Fellowship at the Free University of Berlin, Duke University,  
 Graduate School (1988/9-1989/6)  
 Conference Travel Fellowship, Duke University, Graduate School (1991-  
 1992)  
 ICU International Academic Exchange Endowment 1995-1996,  
 International Conference in Kyoto 1996, "Cultural Encounters in the  
 Development of Modern East Asia," Doshisha University, Kyoto,  
 22-25 July 1996.  
 ICU International Academic Exchange Endowment 2012, International  
 Musicological Society, The 19th Congress, Moderator, Session FR 7b  
 "Asian Perspective," Rome, July 6, 2012.

### 所属学会と役職 (Academic Societies and Positions Held)

国際音楽学会 (IMS), 国際音楽文献目録委員会 (RILM),  
 国際音楽資料情報協会 (IAML), 日本音楽学会, 文化経済学会 (日本),  
 キリスト教礼拝音楽学会, アメリカ音楽学会 (AMS)  
 キリスト教礼拝音楽学会 学会誌編集委員長 (2009-現在)  
 日本音楽学会 常任委員会委員 (庶務担当) (2011-2015)  
 Program Committee Member, International Musicological Society, The  
 19th Congress, Rome (2012)  
 国際音楽文献目録委員会 (RILM), 日本国内委員会 委員長 (2015-現在)

キリスト教礼拝音楽学会 会長 (2016-現在)  
日本音楽学会東日本支部 委員 (例会担当, 2017-現在)  
国際音楽資料情報協会 (IAML) 日本支部長 (2017-現在)

## 業績 (List of Works)

### 博士論文 (Ph.D.Dissertation)

“Music and Musicians in the German *Stammbücher* from circa 1750 to circa 1815,” Duke University, 1991.

### 著作 (Books)

「ジョージ・ガーシュイン」「ヘンリー・カウエル」等52項目『新音楽辞典・人名』, 音楽之友社, 1982.

「ドメニコ・チマローザ」「古典派音楽」『新カトリック大事典2』上智大学編, 研究社, 1997.

“Ikebe, Shin'ichiro,” et al, *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*, 2nd Ed., London: Macmillan Publishers, 2001.

『天才音楽家たちの友情記念帳』(講談社選書メチエ), 講談社, 2002.

(編著)『アジアにおける異文化交流: ICU創立50周年記念国際会議』明治書院, 2004.

「ベートーヴェン」「メンデルスゾーン」「リスト」「ベルリオーズ」他『新カトリック大事典4』上智大学編, 研究社, 2009.

「唱歌」他『日本語大事典』朝倉書店, 2014.

### 論文 (Papers)

“The Concept and Origin of the *Stammbuch*: Current Theories,” *Humanities: Christianity and Culture* 26 (1994): 31-47.

“Women and Music in Trecento Italy as Seen in the Contemporary

- Literature and Paintings: A Preliminary Study," *Humanities: Christianity and Culture* 29 (1998): 1-15.
- 「バッハと友情記念帳の伝統」『バッハ全集（第4巻）教会カンタータ4』小学館, 1998, 170-184.
- 「トレチェントの女性と音楽—当時の文学及び絵画から見た一考察—」『音楽芸術：特集ジェンダーと音楽』12 (1998): 39-48.
- 「アメリカにおける岩倉使節団の西洋音楽体験—『理事功程』及び『回覧実記』に描かれた米国音楽事情、特にサンフランシスコを中心として—」『異文化交流と近代化』大空社, 1998, 76-81.
- "The Iwakura Mission's Encounters with Western Music and their Consequence," in *Musicology and Sister Disciplines: Past, Present, Future: Proceedings of the 16th International Congress of the International Musicological Society London*, 1997, ed. by David Greer (Oxford University Press, 2000), 644-645.
- 「友情記念帳と音楽学：音楽研究資料としての友情記念帳の価値」『人文科学研究（キリスト教と文化）』34 (2003): 9-27.
- "The Meaning of Music Education in College: The Case of American Colleges at the End of the Nineteenth Century," in *Musicology and Globalization: Proceedings of the International Congress in Shizuoka 2002* (The Musicological Society of Japan, 2004), 493-497.
- 「礼拝音楽学の多様性：礼拝学、民族音楽学、音楽学の立場から, III. 最近10年の日本の礼拝音楽家研究の動向を探る：『音楽文献目録（RILM日本版）から得られる書誌情報をもとに』」『礼拝音楽研究』5 (2006): 100-103.
- 「蘇るハイドンの姿：オペラの時代の交響曲が実らせたもの」『フィルハーモニー』79(9) (2007): 32-40.
- 「インスブルックの思い出」『ICU宗教音楽センター公開講演集III』(2010): 51-62.
- 「大学における音楽教育の意味—大学世紀末アメリカの大学の場合再考

一]『立教経済学研究』65(3) (2012): 1-10.

“The Iwakura Mission’s Experiences of German Music Culture in 1873 and the Revitalization of the Noh Theater as Their Consequence,” in *Musik und kulturelle Identität, Band 3: Freie Referate und Forschungsberichte*, ed. by Detlef Altenberg and Rainer Bayreuther (Bärenreiter, 2012): 655-660.

「モーツァルトにおける、怒れる女性の表象：『魔笛』の夜の女王と『イドメネオ』のエレットラをめぐる考察」『モーツァルト』（文藝別冊／KAWADE夢ムック），河出書房新社，2013，106-114.

「大学入試は、それ自体が教育の一環であるべき」『教育と医学』64(2) (2016): 21-29.

「オラトリオ『天地創造』でハイドンが目指したもの（1）」『礼拝音楽研究』17 (2017): 3-16.

#### 訳業 (Translations)

ロラン・デウ・カンデ「西洋音楽の起源」『西洋音楽の誕生』（クラシック音楽史大系1），パンコンサーツ，1985，7-21.

ポール・グリフィス「西洋音楽の基礎」『西洋音楽の誕生』（クラシック音楽史大系1），パンコンサーツ，1985，22-25.

アルバート・スィー「中世の音楽」『西洋音楽の誕生』（クラシック音楽史大系1），パンコンサーツ，1985，27-61.

ポール・グリフィス「シェーンベルク、ベルク、ヴェーベルン」『現代音楽』（クラシック音楽史大系10），パンコンサーツ，1985，63-85.

カレル・パウケルト「現代アメリカのオルガン音楽」『日本オルガニスト協会年報』20 (1993): 38-40.

デニス・アーノルド「モンテヴェルディ・クラウディオ」『ニューグローヴ世界音楽大事典（18）』講談社，1994，475-486.

ベルント・バーゼルト「ブランデンブルク＝プロイセンと中部ドイツの宮廷」『西洋の音楽と社会（5）ドイツ音楽の興隆 後期バロックⅡ』

第3章, 音楽之友社, 1998, 50-73.

デヴィッド・ウィン・ジョーンズ「安らぎと自由—ベートーヴェンと『田園』」『ベートーヴェン全集5:「理想と現実1807-1809年」』, 講談社, 1998, 80-86.

### その他の出版物 (Others)

「日本音楽学会第43回全国大会記録」『音楽学』38(3) (1992): 236-238.

「ブラームスの悲劇的序曲とドイツ・レクイエム」『東京アカデミー合唱団第34回定期演奏会曲目解説 (1992.7.6)』, 6-8.

Co-compilation and Annotation of “Bibliographia,” *Imago Musicae, The International Yearbook of Musical Iconography*, vol. III, Bärenreiter (1994): 475-486.

「メンデルスゾーンのオラトリオ『エリア』」『東京アカデミー合唱団第38回定期演奏会曲目解説 (1996.6.24)』, 6-7.

「池辺晋一郎」『日本の作曲20世紀』(音友ムック／音楽芸術別冊), 音楽の友社, 1999, 127.

「ドイツの友情記念帳」北海道新聞夕刊『文化欄』連載1-12回 (1998.4.13-28).

「書評：磯山雅著『バッハ、カンタータの森を歩む1：マリアの3祝日』」『礼拝音楽研究』4 (2004): 73-76.

「ヨーゼフ・ハイドン『四季』」『東京アカデミー合唱団第50回定期演奏会曲目解説 (2005.5.8)』, 5-6.

「祝福された者」『第3回ICUメサイア演奏会曲目解説 (2006.2.25)』, 6.

「バッハの『口短調ミサ曲』」『東京アカデミー合唱団第53回定期演奏会曲目解説 (2008)』, 6.

「ハイドン」他『ピアノ名曲名盤1053』, 音楽之友社, 2009.

「オラトリオ名曲ブック：F. J. ハイドン」『礼拝と音楽』141 (2009): 16-17.

「書評：深井智朗・大角欣矢著『憶えよ、汝死すべきを一死をめぐるド

- イツ・プロテスタンティズムと音楽の歴史』日本キリスト教団出版局 (2009)』『音楽学』58(2) (2012): 98-100.
- 「前書き/Preface」『ICU宗教音楽センター公開講演集I』(2008.3), 『ICU宗教音楽センター公開講演集II』(2009.3), 『ICU宗教音楽センター公開講演集III』(2010.3), 『ICU宗教音楽センター公開講演集IV』(2014.3).
- ラウンドテーブル「グローバル化する音楽学：日本からの提言 (Globalizing Musicology: Advocacy from Japan)」『音楽学』57(2) (2011):147-149.
- 「大学教育への提言—受験生は大切なゲスト—新規導入の入試法に手応え」『サイエンスポータル (Web Journal)』(2015).
- 「キリスト教礼拝音楽学会第16回大会報告」『礼拝音楽研究』16 (2016): 84-86.
- 執筆・構成 (伊東辰彦)・翻訳 (畑野小百合)「同時代の演奏家たちの証言『人間カール・リヒター』」『カール・リヒター：不滅のバッハ伝道師』(文藝別冊/KAWADE 夢ムック), 河出書房新社, 2016, 81-94.
- 「座談会『入試改革』のこれまでと、これから」『大学時報』368 (2016): 14-29.
- 『わが子の教育 (大学情報編)』, 学研プラス, 2016, 10.
- “Greetings” *Music Information in Asia and Advancement of International Collaboration: Searching the Music Source and Connecting the Music Libraries*, IAML/RILM Joint International Conference Committee (2018): 2, 4-5.

### 主な講演 (Selected Lectures)

- 「モーツァルトと *Stammbuch*」日本音楽学会第42回全国大会, 於大阪大学, 1991年10月20日; 「発表要旨」『音楽学』37(3) (1991): 197-198.
- 「音楽家と *Stammbuch* (友情記念帳) の伝統: 例えばハイドン、モーツァ

ルト、ベートーヴェンの場合」国際基督教大学キリスト教と文化研究所公開講演会，於国際基督教大学，1993年10月15日。

「アメリカにおける岩倉使節団の西洋音楽体験：『理事功程』及び『回覧実記』に描かれた米国音楽事情、特にサンフランシスコを中心として」『異文化交流と近代化』京都国際セミナー，於同志社大学，1996年7月23日。

「阿部圭子/ ミシガン室内合奏団コンサート」企画，コメンテーター，於三鷹芸術文化センター，1997年5月21日。

“The Iwakura Mission’s Experience of Western Music and Their Consequence,” International Musicological Society, The 16th International Congress, “Musicology and Sister Disciplines Past, Present and Future,” At The Imperial College of Science, Technology and Medicine / Royal College of Music, 19 August 1997.

「報告とシンポジウム〈音楽学の現状〉」，報告者（国際音楽学会ロンドン大会についての報告）及びパネリスト，日本音楽学会関東支部第266回定例研究会，於成城大学，1997年11月8日。

“The Meaning of Music Education in College: The Case of American Colleges at the End of the Nineteenth Century,” International Congress of the Musicological Society of Japan, Free Paper Session MO11: Globalization and Music Education, At Sizuoka, November 4, 2002.

“The Iwakura Mission’s Experiences of German Music Culture in 1873 and the Revitalization of the Noh Theater as their Consequence,” International Congress, Gesellschaft für Musikforschung, Session C06, At Weimar, September 17, 2004.

「バッハとナウムブルクのヒルデブランド・オルガン」キリスト教礼拝音楽学会東北支部例会，於東北学院大学，2004年11月27日。

「礼拝音楽学の多様性：礼拝学、民族音楽学、音楽学の立場から，III. 最近10年の日本の礼拝音楽家研究の動向を探る：『音楽文献目録

- (RILM日本版)』から得られる書誌情報をもとに」キリスト教礼拝音楽学会，於明治学院大学，2005年5月28日。
- 「おと、音、音楽」三鷹ネットワーク大学講座，2005-2008年12月。
- “Joseph Haydn’s Reception in Japan: Its Transition after the Dissemination of the *Sonaten-Album*,” International Musicological Society, At University of Zurich, July 13, 2007.
- Guest Lecture, “Transition of Joseph Haydn’s Reception in Japan: A Case of the Dissemination of the *Sonaten-Album*, Any Parallel between Japan and Korea?” National Conference, Western Music Research Institute, At Seoul National University, September 19, 2009.
- “A Historical Overview of the Musicological Researches on Korean and Japanese Cultures: Perspectives for a Future Cooperation of Musicologists in Asia,” Current Musicological Scene in East Asia, Session 3B: Asian Musicology: Its Nature and Scope, At Seoul National University, September 17, 2011.
- シンポジウム「平和実現への道筋：私たち卒業生は今何をなすべきなのか」司会及びモデレーター，ICU 献学60周年記念事業「卒業生のためのHomecoming 2014」，於国際基督教大学，2014年10月25日。
- 招待講演「現場を貫き、評論家にはなるな」第27回国際開発関係大学院研究科長会議，於政策大学院大学，2014年11月28日。
- 招待講演「教育方針に合致した入学者選抜制度の実現」日本私立大学連盟平成28年度第4回私立大学フォーラム『大学入試：私立大学の改革』，於福岡大学七隈キャンパス，2016年12月10日。
- International Musicological Society, The 20th Congress, At Tokyo, March 19-23, 2017; IMS Programs and Special Events, RILM Meeting “Collaboration and Dialogues: RILM in Japan,” March 20, 2017.
- 招待講演「授業形態・授業時間の多様化への対応：教育効果をあげるための取り組み事例—70分授業実施の前提」2017年度全国私立大学FD連携フォーラム (JPFF)，於中央大学駿河台キャンパス，2017

年6月3日.

基調講演「新リベラルアーツ考—大学教育再生に向けて—」, 『リベラルアーツ教育とその可能性—教養教育再検討の試み』, 於東京経済大学, 2018年3月16日.

### 放送 (Broadcasts)

テレビ出演: NHK 『ららら♪クラシック』, 「私はあなたを飽きさせない! [ハイドンの『驚愕』交響曲に関して]」日本放送協会, 2014年9月.

テレビ出演: NHK 『ららら♪クラシック』, 「いぶし銀の魅力 [ハイドンの弦楽四重奏曲『皇帝』]」日本放送協会, 2016年4月.

ラジオ出演: NHK 出演: 『オペラ・ファンタスティカ』, 「歴史的名盤『マタイ受難曲』」日本放送協会, 2018年3月.